

令和6年7月14日
< J A R L 渡島檜山支部 >

令和6年度 JARL 渡島檜山支部第1回役員会（どなたでも参加可能）
（令和6年7月14日（日） 午後1時 函館市銭亀町 望洋団地自治会館）

- 1 支部長挨拶
- 2 参加者自己紹介
- 3 議事 司会進行（ 西川 ）
 - (1) 令和6年度支部運営計画
 - (2) 支部会員数の状況
 - (3) 支部内規
 - (4) 役員体制
 - (5) 青少年のための科学の祭典について
 - (6) 第49回支部大会について
 - (7) 支部報の発行について
 - (8) 青森県支部との交流について
 - (9) 第32回支部コンテストについて
 - (10) 支部結成50周年祝賀行事について
 - (11) 非情通信ボランティアについて
 - (12) フォックスハンティングについて
 - (13) ロールコールについて
 - (14) その他 2mを盛り上げる会

参加者

JH8MCT JA8EJZ JM8RWB JA8EJK JE8OGI
JH8NNW JM8OTS JK8TYW JH8CBH

茶菓については、割り勘で皆さんから少しずついただきました。

非常通信について、繰り上げて、役員体制の次に議題にしました。

令和6年6月24日

JARL 渡島檜山支部会員の皆様へ

JARL 渡島檜山支部
支部長 佐々木 朗 JH8CBH

令和6年度 JARL 渡島檜山支部運営方針

0 始めに（立候補の所信）

「アマチュア無線新発見・再発見」をスローガンに、支部会員を大切にしたい支部事業の活性化に努めます。具体的には、

- ①製作教室、体験運用などを通して若者世代の免許取得を働きかけます。
- ②支部会員の多くが楽しめる、また再開局のきっかけとなるような事業を推進します。
- ③アマチュア無線の社会貢献の礎を築きます。

1 支部運営方針の基本

- (1) 伝統の JARL 渡島檜山支部のこれまでの活動を引継ぎ、支部大会にて、会員の活動報告と、活動方針を説明する機会を設け、支部としての責任を持った運営を行う。
- (2) 現にアマチュア無線を楽しんでいる方が、より一層楽しめるような研修会や懇親会などのイベントを企画する。
- (3) 新しくアマチュア無線に出会う方、またその昔にアマチュア無線を楽しんでいた方が、アマチュア無線の楽しさを得ることができるようなイベントを企画し、渡島檜山支部のアクティビティーが上がるような、JARL 会員が増加するような活動を行う。
- (4) アマチュア無線の社会貢献に鑑み、関係機関・自治体町内会と連携した非常通信体制の整備に努める。
- (5) 一般会計の金銭の扱いについては、原則公表とし、特段の配慮をしていく。また、予算は、可能な限り、個人に還元するのではなく、支部運営、会員の増強に使っていききたい。特別会計の収支についても、公益性を十分配慮しながら、運用していく。

以下、2、3に具体的な内容を述べるが、会員のご意見をよく聞いたうえで、実施するもの、改善するもの、実施を見送るものなど、仕訳をしながら、無理をせず実施していきたい。

2 具体的な活動内容（既存の事業、再開事業）

(1) 支部大会・ハムの集いについて

当初の計画では、11月17日の実施となっているが、暖かく、まだまだ日が長い9月に設定する。開催場所は、函館市内近郊及びそれ以外の地方の交互開催も検討するが、今年度については、函館近郊（函館市、七飯町、北斗市）で検討したい。

支部のこの一年間の事業や活動方針、会計などを伝え、支部会員が意見交流ができる場としたい。この2年間、支部大会の名称が消えているので、それも含めての回数とし、支部大会・ハムの集いとしたい。

また、抽選については、前回立候補時に「抽選はなし」ということを伝えましたが、抽選が楽しみであるという多数の意見もあったことから、今年度については抽選会を行うが、無線機については、使ってもらふことなどの条件を付したいと考えている。

(2) 青少年のための科学の祭典について

コロナ禍で5年ぶりの開催となっている。8月25日(日)函館市民会館2階小ホール及び大ホールであり、会場はだいぶ以前の場所に戻った形となる。子どもたちの科学の目を育てるための貴重な機会としても、実施していく。あいにく東京ハムフェアと日程が重複してしまった。

(3) フォックスハンティングについて

廃止になった事業であるが、20年以上継続してきた事業であること、アンテナやアッテネータの工夫などアマチュアらしさが現れる事業であること、また、懇親会を楽しみにしている方も多いなど、この秋に復活の方向で進める。

(4) ロールコールについて

数年続いている事業であり、今後も継続する。開催日程は、毎月の第一土曜日の午後8時を崩さないこととしたい。

(5) 非常通信伝達訓練について

3年前のレピータ利用から、2mのシンプレックス交信に戻った。その成果を伺った上で、2mの方が運用上優れているのか、レピータを生かすのか、併用するのかについて検討したい。また、非常通信ボランティアを再構成し、万が一の時の体制づくりなどを早急に検討する。また、函館市総務課防災担当との連携状況なども伺い、連携を深めていく。

また、非常通信伝達訓練とは別に、通信状況、無線機のメンテナンスを兼ねて、定例の了解度交換を行う。

組織対応が必要であるため、支部の非常通信ボランティアについては、支部直下に位置づく組織とする。

(6) 支部コンテストについて

予定通り、9月6日(金)18:00~8日(日)18:00まで実施する。次年度について、48時間(コンテスト時間としてはあまり見かけない長さであり、十数年前の一週間から見直した)について、意見を募ったうえで、調整を図りたい。いかに参加者を確保して、「渡島檜山の局がない(少ない)」と言われないようにするかが課題である。

(7) 津軽海峡コンテストについて

基本的には、従前通り5月のゴールデンウィーク明けに実施したい。支部間の連携(申し合わせ事項など)を密にし、両支部でルール等に差異がでないよう細心の注意を図る。賞状については、紙で発行したいという気持ちがあるが、その辺も青森県支部から経緯を伺った上で判断したい。

局数では青森県支部の方が圧倒的勝っているが、渡島檜山支部が優勝し、優勝旗が津軽海峡を渡ったことも数回ある。令和7年度は、支部対抗で勝利することを特段の目標としたい。

(8) 青森県支部との交流について

津軽海峡コンテストを始める前年あたり、つまり二十数年前から続いている交流である。それぞれの支部大会の前夜祭及び当日に参加するものである。一時は、かなりの局が行き来していたが、だんだん参加者は、減りつつある。ここ数年は、こちらから行くより、青森から来ていただく方が、多くなっている。旅費・宿泊費は各自持ちとなることから強制はできないが、伝統の交流について、特段の配慮をお願いしていく。

(9) アマチュア無線に関する講座について

ここ数年コロナ禍もあり、実施できたりできなかったりしていた。コロナも一段落したところで、真剣に考えたい。昨今は新しいデジタル通信方式、電子QSL、コンテスト集計の電子化、高い周波数での運用、アンテナの製作、また伝統的なモールス通信など、話題提供は十分あると考える。また、キットの制作会なども行い、一日日程で行うことができないかと考えている。

(10) 支部報について

支部大会に合わせて発行したい。今年度は後述する、渡島檜山支部結成 50 周年記念誌を発行したく思うので、内容については、あまり欲張らずに編集したい。なお、支部報については、ダウンロード、紙のいずれも選択できるようにし、全ての会員に情報が届くようにしたい。

(11) モールズ講習会について

通信士の街函館を持つ渡島檜山支部にとっては、かつてはモールズ通信がとても盛んな支部であった。このことを受けて支部では二十年以上前から、支部主催、支部共催によるモールズ講習会を開催してきた。本年度も支部事業に位置付け、冬季に講習を実施したい。今年（令和 6 年 1 月）は 2 m で行ったが、2 m, ZOOM のいずれが適しているかなど、後日検討していきたい。

(12) 監査指導について

ガイダンス局の運用を始め、日常もワッチし、コールサインの送出などと呼び掛けていき、クリーンなアマチュアバンドを目指す。オーバーパワーなどにも監視の目を向けていきたい。また、正しい運用などについて、随時呼びかけていく。

(13) 講習会への支援

講習会スタッフと連携をしながら、講習会の実施に協力していく。また、開局の相談、ビギナーズセミナーなど必要に応じて開催していきたい。

アマチュア無線の社会貢献に結び付けながら、災害時の通信体制をより強固なものにするため、モデル地区を設けながら、町会・自治会などに団体での免許取得などを促し、その活用の基盤づくりを進めたい。

3 新規事業、再開させたいと考えている事業

(1) 地域クラブの再開

現在の渡島檜山支部の現状を見ると、いくつかのクラブがあるが、その運営に苦慮しているところも少なくないようである。

そこで、函館を中心とした地域クラブを再開させたい。現在、ほとんどすべての事業は J A R L 渡島檜山支部直結となっている。限られた役員の中で、一人一人の掌握ができづらい状況になっている。

私の構想として、クラブの目的として、①会員一人一人の掌握、②クラブ局のコールサインを持ち、無線機・アンテナを財産として持ち、日常の運用をする。（体験局などに活用したい）③支部で扱いにくい、懇親会などの運営を担う。④支部と連携しながら、各種の事業を持ちたてる。などを考えている。支部単独では持ちにくい財産やコールサインを持つことが考えの中心となる。

函館の地域クラブに関しては、自然消滅（言葉が適切でなかったらすみません）をしている。以前の支部長時代に、当時のクラブに所属していた方で、現在もアマチュア無線を楽しんでいる方については、今後、その扱いについては支部に一任するという約束（口頭）はいただいていることを申し添える。

(2) 2m を盛り上げる会

ローカル局が気軽に集い、会食を通して、懇親を深めることは、支部の連携強化、そして、人のネットワークづくりには大切と考えている。比較的安価な店を探し、フランクなイメージで、不定期ながらいわゆる「飲み会」を開催したい。いずれ、地域クラブが発足すれば、運営をそちらに委ねたい。

(3) 特別局の運用

特別局は、支部の様々な観光や事業などの PR になる一方、無線仲間が集い、通信技術の向上を図ることではとてもいい機会となる。また、体験運用などの機会としていきたい。定例のものとして、電波クリーン月間、コナン君関係（現支部長に打診中）などが考えられる。そのほかにも、アイデアがあれば積極的に検討していきたい。（JARL の承認まで最低 3 か月ぐらいかかることから早め早めに着手していく）

(4) 支部結成 50 周年記念式典・記念誌の作成

令和 5 年が支部結成 50 周年の年であったが、一年遅れであるが、実施していきたい。これまで渡島檜山支部では、30 周年、40 周年と記念誌を発行し、式典を行ってきた。大きな節目となるこの時期に、支部結成の 50 年を会員、その他関係者で祝い、次の 10 年へとつなげていきたい。支部会員のご意見を伺った上で、判断していきたい。

(5) 再開局の PR

近年 HF 帯で運用していても、いわゆる再開局組がかなり多数オンエアしている。支部としても、過去にアクティブに運用されていた方で、再開局の可能性のありそうな方について、訪問などをして、呼びかけていきたい。

(6) 電波教室（ラジオ作り）の実施

北海道電波利用推進員協議会と連携しながら、電波教室を開催し、子どもたちにラジオづくりを体験させていく。本事業のみの単独開催は、昨年実施してみて、結構ハードルが高いことから、親子で、孫子での参加、また、子供向け、科学イベント、各種の市や公共のイベントなどでの出展という形も模索していく。

4 一社員として考えていること。

(1) 会員増強に向けて

会員増強特別予算なども含めて、JARL の意義を会員、その他入会を考えている方に発信し、会員数の維持、および増強を図っていく。

(2) JARL の動きに注目していく。

JN や理事会報告、また地方本部会議などの情報に目を通し、会員に情報を提供するとともに、会員の意見を広く聞き、必要と判断する事項については、社員総会に上程していく。

5 今後の推進日程について

- 6 月 14 日 本文書を推薦者に送付。追加、削除、修正などを行う。
- 6 月 24 日 支部運営方針を発表・ホームページ公開 (OHS、郵送)
役員公募、依頼
- 7 月 14 日 第 1 回役員会●当初計画より一週間遅れ
- 7 月 21~9/13 ガイダンス局運用 (未定)
- 7 月 27 日 体験局運用(JA8RL)●~~(要検討)~~中止
- 8 月 10 日 体験局運用(JA8RL)●~~(要検討)~~中止
- 8 月 24 日 第 2 回役員会
- 8 月 25 日 青少年のための科学の祭典参加
- 8 月 31 日 渡島檜山支部報発行
- 9 月 6 日 渡島檜山支部コンテスト●
- 9 月 22/29 日 青森県支部大会に参加 (青函交流) ●~~日程未定~~ 前日前夜祭
- 9 月 支部大会・ハムの集い 第 3 回役員会
- 10 月 ~~タリ~~→電波特別局 中止
- ~~10 月~~ ~~フォックスハンティング~~交流会 (未定) 次年度に延期
- 10 月 13 日 第 4 回役員会●
- 11 月 支部結成 50 周年記念式典・祝賀会~~(未定)~~実施
- 12 月 アマチュア無線に関する講座 (未定)
- 1 月 2 日 支部 QSO パーティー、石狩後志・胆振日高と連携● (要検討)
- 1 月 1 日~ モールス講習会
- 1 月 第 5 回役員会 新年会
- 2 月 電波教室 (未定)
- 3 月 第 4 回役員会 決算、事業報告

●は年度当初に入っていた行事 それ以外は新体制で追加した行事

随時

- ・ ロールコール実施 毎月第 1 土曜の 20 時
 - ・ 非常通信に備えての機器点検コール
 - ・ ホームページの管理
 - ・ メーリングリスト (OHB,及び OHS) の管理 **現在 OHB65 OHS64 申し込み**
- その他、実施の有無・期日未定のものについては、決まった時点で、随時予定に組み入れていく。

6 役員などについて

支部長を責任者とし、総務幹事、会計幹事、常任幹事（ここまでいわゆる四役）、理事 10 名程度を役員と構成を取りたい。監査指導委員もこの中に含めていく。

その下に、協力員として、イベントなどの運営、補助などに入っていただく方を確保したい。また、大先輩に重要な事項について相談する、「相談役」になっていたきたいと考える。

役員や協力員は、熱意を最優先とし、若い方、開局年数の長短にこだわらず、受け入れていきたい。

推薦者においては、役員として活躍してほしいという気持ちはあるが、あくまでもそれぞれの考えで判断していただければと思う。

7 情報発信、情報交流について

(1) 支部からの情報提供について

原則として、JN、ホームページ、ML、支部報などとするが、できるだけ最新の情報を届けたいことから、郵送なども考える。ただし、一部送料を負担いただくなども考えていく。

(2) ホームページについて

以前の JARL からいただいた HP アドレスに戻して運営。JARL から最新会員名簿を取り寄せ、メール、郵送などで知らせる。

<https://www.jarl.com/ohs/>

(3) メーリングリストについて

これまで通りの運用とする。OHS については、受信のみでよければ、jarl.com での登録も可としたい。

8 就任直後の情報発信・情報収集について **184 名のうち 84 名から回答**

次のような内容で、発信、また、会員の意向を集約していきたい。

(1) 発信していくこと

この文書に記述された内容。追加、修正、削除したもの

(2) 集約すること

- ① メーリングリスト (OHS,OHB) への登録に関すること
- ② 役員・監査指導委員・協力員の登録について
- ③ 非常通信ボランティアへの登録について
- ④ 支部からの情報の伝達方法 (HP やメール、郵送、場合によっては手渡しなど) について。支部報、50 周年記念誌 (作成するとして) は、全会員に紙または、電子媒体で届けたい。
- ⑤ 支部への意見・希望などについて

令和6年7月14日

<佐々木 朗>

J A R L 渡島檜山支部の概要について

	2024 年 6 月	2021 年 10 月	増減
社団局	3	8	-5
個人会員	184	239	-55
准員	32	11	+21

考察

※このうちライフメンバー（以前は終身会員と呼称）は、60 名ほどおり、准員の全てがライフメンバーである。

※ライフメンバーの会員は、JN の受け取り、QSL 転送以外の全ての権利を有している。

※ライフメンバーの中には、アマチュア無線をやっていない方が多くいると考えられる。ライフメンバーのうち、私が知っている範囲で無線をやっていると思われる方は数名程である。支部からの照会にもほとんどお返事を頂けない状況はある。

※会員は、確実に減少しているのは見ての通りである。もう少し細かく見ると、減っていくのもあるが、新しいコール以外にも、新規に会員になっている方にも注目したい。

※准員が増えたのは、ライフメンバーのうち無線局の免許が切れ、自動的に会員から准員に移行されたものと考えられる。**准員が増えるのは喜ばしいとは言えない。**

※表現が不適切かもしれないが、全会員のうち3分の1は、ほとんど無線から離れている会員で構成されている状況である。

余計なことかもしれませんが

全国的に小さな支部の再編成などの声が時々上がるのを聞くが、北海道地方本部としては、今は、北海道の支部再編成を考える時期ではないという見解である。

支町別会員数

渡島	市町	会員数	檜山	町	会員数
	函館市	125		上ノ国町	3
	北斗市	18		江差町	2
	七飯町	10		厚沢部町	2
	森町	2		奥尻町	3
	八雲町	8		乙部町	0
	長万部町	3		せたな町	1
	木古内町	5		今金町	3
	知内町	2			
	福島町	0			
	松前町	0			

JN に掲載されるサイレントキーは、家族からのものもあろうと思うが、私の経験でいうと、私の方で確認できたものについては、支部長として、会員課に情報を届けている。

令和 6 年 7 月 14 日

＜佐々木 朗＞

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部内規(一部修正)

- 第 1 条 本支部は、日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部(以下支部)といい、事務局を支部長宅に置き、その組織及び運営等を定める。
- 第 2 条 本支部は、日本アマチュア無線連盟の一組織として、無線通信技術の向上、会員の友好と親睦、~~災害の防止の促進に寄与するとともに、災害時の通信の協力など社会貢献に寄与するとともに、~~アマチュア無線の普及・振興・発展を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本支部は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 支部大会の開催
 - 2 アマチュア無線の普及・振興・発展のための事業
 - 3 電波利用の秩序の維持のための事業
 - 4 災害時に備えた非常通信の訓練及び災害時における非常通信の実施
 - 5 会員相互の友好と親睦を図る事業
 - 6 電波利用に関する知識や技能向上を図るための講習会、研究会、競技会の実施
 - 7 支部の活動の情報発信に関わる事業
 - 8 その他、第 2 条の目的を達成するための諸活動
- 第 4 条 本支部の会員は渡島檜山に住所のある JARL 会員とする。
- 第 5 条 本支部には次の役員を置き、その任務は以下の通りとする。
- 1 支部長は、支部の会員や支部役員を把握し、支部の運営を司る。
 - 2 総務幹事は、支部長を助け、支部の総務に関する事務を所掌すると共に、支部役員との連絡・調整を図る。
 - 3 ~~総務副幹事~~常任幹事は、総務幹事を助け、支部の総務に関する事務を所掌すると共に、支部役員との連絡・調整を図る。
 - 4 会計幹事は、支部長を助け、支部の会計および財産に関する事務を行う。
 - 5 幹事は、支部の各事業を受け持ち、事業の推進に協力する。
- 第 6 条 役員の任期は、支部長の任期に連動し、役員は支部長が任命する。支部長は、必要に応じて、任期途中でも新役員を任命、又は罷免することができる。
- 第 7 条 役員会は、必要に応じて支部長が招集し、本支部の執行に必要な事項を決定する。
- (1)役員会の議事は、役員の意見を聞き、支部長が決する。
 - (2)役員会には、会員のどなたも参加することができ、意見を述べることができる。

第 8 条 支部長、総務幹事、常任幹事、会計幹事を支部四役と称し、危機管理、緊急な事項について協議することができる。この時は、次の役員会に報告し、承認を受ける。

第 9 条 支部には役員の他に、協力員を置くことができる。協力員は、役員の指揮のもと、個別の事業の推進に携わる。

第 10 条 支部には役員のほかに、相談役を置くことができる。支部長は、支部運営にかかわる重要な事項について、相談役に相談を求めることができる。新設

第 11 条 役員会の内容については、外部に公表することを控えるべきと支部長が判断したもの以外は、公表を原則とする。

第 12 条 この会の組織にJARL渡島檜山支部監査指導委員会を位置づける。監査指導委員は、役員以外からも選出することができる。

第 13 条 事業年度及び会計年度は、日本アマチュア無線連盟定時社員総会に連動する。

第 14 条 支部内規の改定は役員会で行う。

付則2020年11月1日 第二回役員会で決議

付則2024年7月14日 第一回役員会で一部修正提案

令和6年度 J A R L 渡島檜山支部役員体制

佐々木 朗	JH8CBH	支部長
村田 隆	JE8OGI	
船橋 幸三	JK8XBR	
中澤 隆行	JH8NNW	常任幹事
松平 真一	JM8OTS	総務幹事
佐々木 真一	JH8MVL	
田中 正博	JM8AOH	会計幹事

監査指導委員

佐々木 朗	JH8CBH	監査指導委員長
砂山 寿幸	JA8TMJ	監査指導委員
西川 貴博	JK8TYW	監査指導委員

相談役

三澤 洋大	JF8NWJ
清水 深海	JA8WNR

協力員

27名

非常通信ボランティア

35名

役員数としては、不足感があります。運営に協力できる方、手を上げていただければ幸いです。

令和6年7月4日

<佐々木 朗>

青少年の科学の祭典への対応について

1 目的

- (1)ラジオ作りを通して、子どもたちの科学へ、そして見えない電波への興味を持たせ、アマチュア無線への緩やかな誘（いざな）いの場とする。
- (2)JARL 渡島檜山支部会員の制作技能を向上させ、次世代への技術の伝承を図るとともに、会員同士の交流の場とする。

2 経過

青少年のための科学の祭典については、1999年から始まり（JARL 渡島檜山支部もそのあたりから参加）、2019年まで続けました。当初は函館市民会館小ホールで開催され、途中から千代台陸上競技場の室内トラックに場所を移し、しばらく続けていました。ところがコロナのため、開催ができず、やっと本年4年振りに開催することができるようになりました。今回も財団フェスティバル内での開催となります。

青少年のための科学の祭典は、全国で行われており、その資金は、「子どもゆめ基金」という団体からの助成金を受けて活動をしております。

科学の祭典の事務局長は渡辺儀輝先生で、京都の立命館慶祥高校の先生です。以前南茅部高校の先生をしていた時代に、理科の教員仲間として知り合い、それを通して、アマチュア無線連盟もこの大会に参加しております。

これまでは、大人一人当たり3000円ほどの助成金が出ており、それらを全て戻していただき、1個1000円程度の2石のAMラジオを30個ほど購入しておりました。ところが、お世話になっていた原先生JA8ATGの「ラジオ少年」が店じまいをし、その引継ぎ先となった徳祐電子もAMラジオは在庫なし（AMラジオが近々廃止されることが影響していると思われる）で、探していたところです。

一方、大人の助成金が今年は1万円となり、今までの現金支給ではなく、全て口座振り込みとなった。資金も確保のめどが、ついたので、金額の上限を上げながら、今年の制作キットにたどりつきました。

3 青少年のための科学の祭典とラジオ作り

函館市財団フェスティバル（野菜市、フリーマーケット、縁日コーナーなど）の一環として青少年のための科学の祭典が行われます。祭典では、大学生や高校生の理科サークルが、液体窒素、駒、植物の不思議、天体、果物電池など来場した子どもたちと科学実験を行います。私たちはそのブースの一つとして、ラジオ作りを行います。

4 日時 令和6年8月25日(日)

集合 9:00 開会式 9:30 イベント 10:00~15:00 閉会式 15:30

前日準備 8/24 13:00~15:00

5 場所 函館市民会館小ホール アリーナの奥の昔の市民会館、向かって右手の2階

6 インストラクター

◎佐々木 朗 JH8CBH 伊久留 智信 JL8JUK 甲谷 巖 JA8DHR
鍋嶋 康文 JJ8KTT 齋藤 一雄 JA8EJZ 滝野 康介 JA8EGS
池内 陽一 JM8RWB 村田 隆 JE8OGI 恒吉 重正 JH8MCT
伊藤 秀夫 JE8HLA 福島 誠 JA8IRQ

◎は責任者

※お金の関係もあり、万が一当日都合がつかなくなった場合は、名前はそのままにして、別の方に入っていただくことにします。

7 ラジオについて

(1)品番 TK-744(ELEKIT)ワイドラジオ 半田付けラジオ組み立てキット 2510円

(2)ラジオの概要 単三2本で、素晴らしい音質でなります。函館市内のFM放送、楽勝に受信できました。DSPで調整部分はありません。ICは組み立て済み。部品数も少なく、そこそこに半田付け体験もでき、小学生でも十分製作可能と判断しました。



(3)予習 インストラクターはこのラジオ作りは初めてですので、全員に一台事前にお渡ししますので、組み立ててみてください。組み立てたものは、そのまま、差し上げます。

(4)購入費ですが、40台発注済(7/2)です。100,400円、立て替え済みです。

(5)ラジオ代金は、インストラクターは11名の謝礼で賄う予定です。個人に渡すお金ですが、振り込まれてからでかまいませんので、任意の額となりますが、バックいただければ助かります。

(6)電池については、別途出る消耗品から購入いたします。

(7)半田ごて、半田ごて台、ラジペン、ニッパーなどは支部の財産を使います。

8 事前準備 ()は責任者

(1) 必要なものがあるかどうかの確認 ()

- ・ラジオキット 40 個 (佐々木)
- ・電波適正利用のチラシなど (佐々木)
- ・パンフレット、ラジオを入れる袋 ()
- ・JARL 渡島檜山支部の連絡先など (ハガキ程度) ()
- ・以下全て 5 セット (半田ごて、半田ごて台、ヤニ入り半田、ニッパー、ラジオペンチ、乾電池 2 個、タオル) 足りないものの補充 () タオル伊藤さん?
- ・テーブルタップ ()
- ・ラジオに貼るシール (伊久留さん?)
- ・受付用紙 (佐々木)
- ・掲示物 模造紙 2 枚程度 (電波の利用について) 製作については説明書があるので不要 ()
- ・電池購入 アルカリ単三電池 110 円×15 パック
領収書は、「青少年のための科学の祭典」 ()

(2) 事務局との折衝 (佐々木)

(3) 前日準備 参加者 ()

長机 3 脚 椅子 10 脚

貼りもの (パーテーションなど必要か)

室内での受信感度の確認

名札 (祭典事務局から提供ある可能性あり)、必要に応じて名刺

9 当日の担当

- ・ブースのセッティング (机、いす、貼物) 全員 旗を固定する台 池内さん
- ・事務局との連携 (佐々木)
- ・写真 スナップ、全体写真 (池内)
- ・技術総責任者 (甲谷)
- ・受付・全体の流れ (佐々木)

10 事後

- ・お金の関係 (佐々木)
- ・J N 記事 ()
- ・支部報記事 ()

11 当日動き他 集合 9 時

(1) 駐車場

出展者用の駐車場は、特別にありません。したがって、有料駐車場に入れるか、家族に送ってもらう、乗り合わせなどを検討します。合意が形成されれば、迎えに回る、帰りに送るなども考えます。車はラグビー場、銭亀に置くなども検討します。

佐々木に配車一任

(2)受付について

目標を 30 台とする。(甲谷さんは一度作ったので試作はありません。) 製作者(子ども)一人につき、インストラクター1名のペアとします。一度に扱える人数は、5人とします。それを超える場合は、保護者から電話番号を聞き、時間近くになったら連絡をする旨を伝えます。その場合、一台につき、およそ1時間かかるものとして、概略の待ち時間を伝えます。順番が来る10分ぐらい前に電話連絡をします。電話に出ない場合は、留守電などは使わず、キャンセルとなることを伝えます。

時間とのからみで25台で受付を一度止め、状況を見ながらあとの5代をどうするか進める。

(3)製作の流れ

- ・自己紹介
- ・相手の名前学年を聞く。相手の名前は愛称などでも可
- ・何を作るかの説明
- ・留意点 特に安全な半田付けについて
- ・うまくいったところをほめてあげる。直すところは具体的に指導します。
- ・身近な電波の利用、アマチュア無線について、懇談的にお話します。

(4)留意点

- ・ラジオは事前に、必ず組み立て体験をしておくこと。部品の取り付け順などを確認しておきます。一度経験があると本番の気持ちは楽になります。
- ・うまくラジオが鳴らなかった場合、空きスタッフで点検。それでも動かない場合は、住所などを聞いて、後日お届けとします。
- ・万が一やけどなどがあった場合は、責任者、保護者に報告するとともに、直ちに流水で冷やします。薬などは付けません。祭典事務局へもすぐに報告します。
- ・ラジオの値段などを聞かれた場合、「子どもたちの夢のため、がんばって準備しました。」程度にします。こちらからは触れないこととします。「アマゾンで購入も可」ぐらいは伝えていいことにします。

(5)インストラクターの順番

- ・原則次のペアで、交代で指導を行う。

JL8JUK と JJ8KTT JA8DHR と JM8RWB JE8OGI と JH8MCT

JA8EGS と JA8EJZ JE8HLA と JA8IRQ

JH8CBH は受付、全体を見ます。

お昼もかんたんなものが出ますので、交代しながら取ってください。

(6) 終わったら全員で後始末。簡単な反省会を持ち、16時までには解散。

12 予算

収入の部

インストラクターへの1万円 ×11名	110,000 円
科学の祭典より消耗品	1,650 円
合計	111,650 円

支出の部

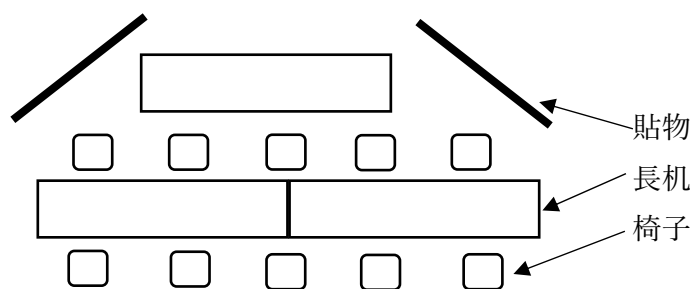
ラジオキット TK-744 1台 2,510 円×40 台	100,400 円
アルカリ乾電池 4本入り 110 円×15 パック	1,650 円
その他、雑費（模造紙代など）	2,000 円
予備費	7,600 円
合計	111,650 円

収入－支出 111,650－111,650 円＝0 円

※大人の参加者には謝礼金・交通費として事務局より一万円が支給され、届けてある口座に振り込まれます。一度各自の口座に入のお金なので、あくまでも任意の志となりますが、ラジオ代としての供出をお願いしたいです。皆さんへのお礼は、子どもたちの笑顔と試作品のラジオとさせていただければ幸いです。尚、お金、祭典後、振り込まれると思われますので、入金を確認してから、何らかの形で佐々木に届けるのでかまいません。

今回は、会議に出た方は、謝金のバックを了解してもらったが、全額返還は考えた方がいいという意見もあり。次年度はどれだけ謝金ができるかわからず、様子見としたい。

13 会場図



小ホールのどの辺になるかは、未定

14 経過と推進日程

5月9日頃 科学の祭典事務局から、理科サークルを通して、科学の祭典の情報が届きました。私から支部へ「そちらへも連絡が行っていると思いますが。」ということで、念のため連絡をしました。

5月18日 事務局から、JARL 渡島檜山支部に連絡しましたが、音沙汰がないということで、私へ参加の有無を打診されました。この時点で、決裁権はありませんので、保留（「やりたいなあと思っています。」程度）で連絡しました。5月末日までの申し込みでしたので、以後何回か支部へ連絡を取りましたが、連絡が取れませんでした。

6月11日 JARL 北海道地方本部長の了解を得て、科学の祭典事務局へ参加を申し込みましたところ、参加の配慮をいただきました。

6月24日 科学の祭典正式参加を決裁し、インストラクター募集開始しました。

 昨年望洋団地のラジオ作りに携わった方にまず声をかけました。

6月25日 OHS でインストラクター公募しました。

6月30日 インストラクター一覧を提出、正式申し込み完了しました。

7月2日 ラジオを発注しました。

7月7日 ラジオ到着予定（早めに作りたい方は、取りにいらしてください）

7月14日午後0時30分 望洋団地自治会館 打ち合わせ・ラジオを渡します。

8月24日 前日準備

8月25日 当日

9月上旬位まで 決算完了

検討してもらいたいこと

この祭典に合わせて体験局を行うか。

ポータブルのHF機とリード線（アンテナ）で、短波帯の様子を聞かせる。甲谷さん持ってくることができる人は、ハンディ機などで体験運用も考える。

令和6年7月14日

＜佐々木 朗＞

第49回JARL渡島檜山支部大会の実施案

0 支部大会の回数について

昨年、一昨年は、支部大会の称号は使わず、ハムの集いのみの称号としていた。この2回が支部大会（会務、決算の報告、事業、予算の説明など）でなければ、今年が47回目ということになる。しかし、ややこしくなるので、一昨年、昨年も支部大会を実施したものと考え、第49回の支部大会としたい。原案通り

令和6年 49回

令和5年 48回（支部大会の称号なし）

令和4年 47回（支部大会の称号なし）

令和3年 実施できず

令和2年 実施できず

令和元年 46回 厚沢部町で開催

1 目的

- (1)支部会員が一堂に集い、趣味を同じくする者同士の懇親を深めると共に、通信技術、無線技術の自己訓練の場とする。
- (2)支部会員の家族、友人などを誘い、アマチュア無線の楽しさを知ってもらう機会とする。

2 日時 令和6年9月15日（日）13:00～16:00

※当初11月17日の予定であったが、寒くなること、夕暮れがはやいことなど、遠隔地の方の参加を考慮し、9月に繰り上げた。この日は、石狩後志及び十勝支部も支部大会が開かれる予定である。北海道地方本部の内諾は得ている。

3 会場 北斗市農業振興センター（北斗市東前74-2 電話：0138-77-7667）

4 内容

(1)支部大会

- ・支部長挨拶
- ・来賓あいさつ
- ・令和6年度津軽海峡コンテスト入賞者紹介
- ・令和5年度支部事業報告・会計報告（要調整）

- ・令和6年度支部事業計画・予算
- ・質疑応答および意見・要望の聴取

(2)ハムの集い

- ・記念講演
- ・ジャンクオークション大会
- ・抽選会
- ・記念写真

5. 事前準備内容

(1) 支部役員・協力員の業務

支部大会会場確保（7/2 仮予約決定後正式予約）、袋詰め書類準備、事前PR、
表示類、発表者および出展者募集、写真受付・発送、ジャンクオークション大会告知
・駐車場の誘導 支部大会会場作り、会場後始末、出展ブース作り

6. 準備日程

8月上旬 支部報原稿執筆完了

8月中旬 支部報完成・支部大会告知

8月下旬 会場設営の計画、当日参加できる人員の確保、役割分担

第49回JARL渡島檜山支部大会

	全体進行	()
会場準備		(12:00-)
受付		(12:30)
1 開会	()	(13:00)
2 JARL 渡島檜山支部長挨拶	支部長 JH8CBH 佐々木朗	
3 来賓あいさつ	北斗市長 北海道地方本部長 JARL 会長	
	おそらく北斗市長、北海道地方本部長は代理かメッセージ、JARL 会長はメッセージ 会長にはビデオメッセージでお願いする。	
4 第22回津軽海峡コンテスト入賞者発表	()	
5 令和5年度JARL 渡島檜山支部事業報告・会計報告	()	
6 令和6年度JARL 渡島檜山支部事業計画・収支予算	()	
7 監査指導報告	JH8CBH 佐々木朗	
8 質疑応答および意見交換会		(13:30-14:30)
(休憩	記念撮影)	(14:30)
	撮影場所確認、案内すること	

・ハムの集い

全体進行 ()

11 記念講演 (14:45-15:15)

「支部結成 50 年を迎えて (仮題)」 支部会員の交渉

12 ジャンクオークション大会・抽選会 (15:30-16:00)

13 閉会 () (16:00)

担当分担：

受付 展示 写真 配布物 名札作成など

展示・交流スペースも設けていく。

・オークションの出品要領

- (1) 「自分にとっては不要だが誰かが欲しいかもしれないものの交換会」
- (2) アマチュア無線関連のもので無線機、アンテナ、部品、本、周辺機器、など。
- (3) 不用品も可。落札したものを転売するのは禁止。
- (4) 当日、受付に出品したいものの名称、最低価格、特徴などを記入して出品する。
- (5) 売れた代金は本人に渡すが、支部への寄付も歓迎。
- (6) 買い手が見つからないものは当人が持ち帰る。

・抽選 ハンディトランシーバー一台とする。

対象は JARL 会員非会員を問わない。ただし、アマチュア無線、JARL の発展を考えることから、非会員は、当たったら会員になること。免許のない方は、免許を取って、会員になること。現会員を含めていずれの場合も、一年間でのべ 100 局 (同一局との複数交信も含む) と交信を約束してくれる方としたい。(報告書などは求めない)

事業報告・会計報告などは必要と考える。前年度については前執行部に情報提供を願います。

令和 6 年 7 月 14 日

＜佐々木 朗＞

令和 6 年度 J A R L 渡島檜山支部発行計画~~（案）~~

1 目的

支部及び会員の活動状況の情報発信をすることにより、支部会員のアマチュア無線に対する士気を高めるとともに、支部の活性化、会員の親睦を深めることを目的とする。支部の活動を内外に P R する一つの機会とする。また、支部結成 50 周年の記念誌を発行する場合、あまりよくばらない内容で編集したい。

また、支部と会員の唯一のつながりになっている方もいることから、全員に目に触れていただくように努める。

2 支部報編集委員

編集長 J H 8 C B H 副編集長 ()

編集委員 () ()

3 配布に関わって

- (1) インターネットでのダウンロード(現在 61 名)を原則とするが、希望する会員には郵送(現在 10 名)する。
- (2) 紙で上記の(10 部)をはじめ、ハムセンター(20 部)、ドリームレディオシステム(20 部)、関係機関への送付(20 部)・保存(10 部)とする。
合計 80 部。また、機会を見つけて配布するために 30 部ほど印刷しておく。合計印刷は 110 部

4 推進計画

7 月 14 日(日)	提案、編集者決定
7 月	第 1 回編集会議
7 月	原稿依頼開始、広告主募集
8 月 10 日(土)	原稿集約終了
8 月	第 2 回支部役員会(進捗状況報告)
8 月 20 日まで	校正完了
8 月	印刷開始、封筒作成
9 月 1 日(日)	支部報発行 発送、ショップに届け、反省会議

5 内容及

(1) ページの割り付け

- 1P 支部大会のご案内 ()
- 2P 支部長挨拶 ()
- 3P・4P JARL 会長 北海道地方本部長あいさつ
- 5P・6P 支部運営方針の概略 ()
- 7P・8P 支部役員紹介 ()
- 9P・10P 令和 5 年度支部事業・決算報告 ()
- 11P・12P 令和年度の活動・予算の報告 ()
- 13P 監査指導委員会より ()
- 14P 令和 6 年度第 22 回津軽海峡コンテスト結果 ()
- 15P～16P 青少年のための科学の祭典速報 ()
- ~~17P～18P 各局短信 () 編集後記 ()~~

支部結成 50 周年誌に重点をかけるため、コンパクト化を図る。

- ・各局短信は最近の活動状況でハムに関わる事項、また遠ざかりつつある方は今がんばっていることなど一言 50～100 字程度。短くたくさんを目指す。
- ・スペースを見ながら、アムール、ドリーム、他の広告を入れる。
- ・ページ数については一応の目安とし、増減は可能とする。ただし、ページ数は 4 の倍数 (A3 用紙のみで間に合う)、4 の倍数を除く 2 の倍数であれば、真ん中に A4 を一枚挟むことになる

(2) 1 ページの文字数 標準として 40 文字×40 程度とする。

(3) 紙面編集・印刷製本

原稿は、テキストでもワードでもエクセルでも構わない。手書きの場合は担当で電子化する。

写真については、特に形式は問わない。紙にプリントしたものでも OK。
紙資料についてはスキャンする。

(4) 原稿の送付先 (佐々木)

(5) 紙面編集 ()

ワードにより体裁を整え、紙面を作成する。最終的には PDF にする。

(6) 校正 全編集委員で校正を行う。

(7) 印刷 (佐々木) インク継ぎ足し方式のプリンタのためコストは安い。

インクは、一セット 5,000 円程度予算化する。

(8) 発送 郵送 () () 配達・ハムショップ () ()

6 予算

A 3を二締め	1,000 円
インク代	5,000 円
発送費	8,000 円
封筒	500 円
予備費	500 円
合計	15,000 円

※広告収入（一件 3,000 円をめど）を充て、支部費支出を抑える。

7 留意事項

会員に支部を活性化させていくためには、支部報が大切な位置づけであることを話し、原稿執筆、決められた期間での提出をお願いする。

また、原稿依頼の時、趣旨を損ねない程度に加筆修正させてもらうことのできることを得る。

各局短信については、積極的に依頼し、アイボールでの取材、聞き取りなども可とする。

令和 6 年 7 月 14 日

<佐々木 朗>

JARL 青森県支部との交流について

0 経過

上田支部長時代に始まり、20 年以上に渡り、お互いの支部大会、前夜祭に参加するなど、青森県支部と渡島檜山支部は交流を続けてきた。多きときで 10 人前後のメンバーが行き来していた。津軽海峡コンテストもそのような中で生みの声を上げた。

ここ数年、コロナの影響もあり、なかなか交流は進まなかったが、どちらかというところから行く人数よりも、来ていただく人数の方が多かったという実態はある。

1 目的

(1)青森県支部大会に参加し、青森県支部のメンバーと交流し、アマチュア無線、JARL の振興、発展を目指す。

(2)他支部の活動内容を知り、渡島檜山支部の活動に生かしていく。

2 期日 令和 6 年 9 月 29 日（日） 前夜祭は 28 日（土）

28 日昼過ぎに出かけて、29 日の夜に函館戻り。

3 場所 八戸総合福祉会館 青森県八戸市根城 8 丁目 8-155

新函館北斗駅集合で、~~日帰~~新幹線、八戸からバスで直通

4 費用 JR 代が往復で 20000 円ぐらい、宿泊費 5000 円位？。

お土産などの諸経費も少しご負担ください。

あと、懇親会費、支部大会昼食、バス代などが予想されます。

5 参加の申し込み 9 月 15 日の渡島檜山支部の支部大会あたりで確定できればと思っています。

6 その他

(1) 前夜祭も懇親会程度になりますが、予定されています。

(2) 渡島檜山支部大会には、青森県支部からの来場があらうかと思います。送迎などお願いするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いします。

当日会場からは、参加の意思を示した方はなし。今後呼びかけていく。

令和6年7月7日

<佐々木 朗>

令和6年度 第32回支部コンテストの実施について

1 目的

- (1) 渡島檜山管内の会員局のアクティビティを高め、通信技術を向上させる機会とする。
- (2) 全国に渡島檜山支部をPRする機会とする。せめて渡島を「おしま」ときちんと呼んでもらえるようにする。

2 日時 令和6年9月6日（金）18:00～9月8日（日）18:00 まで

3 規約 詳しい規約は別紙

- ・シングルバンドと~~モノ~~マルチバンドとし、移動局の運用場所変更を認める。
- ・マルチはハムログコードとし、市町村とする。

4 昨年との変更点

- (1) ログの受付をメールで行うこと。
- (2) 全参加者に参加証（ハガキ）を贈り、参加のお礼とする。

5 担当者

- (1) 全体責任者 JH8CBH
- (2) 郵送ログ送り先（ ） メール送り先（ ）
- (3) 集計（ ） 西川さんが引き受けるかどうか検討する。
- (4) 賞状・参加証作成（ ）
- (5) PR チラシ作成・配付（アムール、ドリーム）（ ）
- (6) JARL との連絡 CQ誌に速報として載せてもらう。 JH8CBH

6 推進日程

- 7月14日 原案提示
- 7月20日 最終原案チェック 案を外す
- 7/月22日 JARL へ規約送付 支部HPに掲載
- 8月中旬まで アムール、ドリームにポスター掲示完了
- 8月末まで 昨年参加者にメールでコンテスト案内
- 9月6日 第32回渡島檜山支部48時間コンテスト実施

9月30日まで 受付状況随時発表 ログ提出の呼びかけ
9月30日 ログ提出締め切り
10月6日まで ログ最終点検 順位決定
10月13日 役員会 支部コンテストの反省
10月18日まで 結果発表、JARLに結果送付 賞状発送

7 その他

- (1)優勝者、ユニークな運用をされた方には、支部報の原稿依頼をする。
(2)48時間という稀なコンテストの長さだが、「長すぎるかなあ」とも思いますが、いかがでしょうか。

デジタル通信（FT8）なども取り入れると参加者数が増えるのではないかと意見あり。

・QSOパーティーでは、FT8も実績あり。RR73の後に送信。

・それ以外は情報なし。

・斉藤さんの方で、交信例を示していただき、JARLのコンテスト委員会に打診。了解が得られれば、試みとしてやってみたい。

7/15 追記、検討の結果、正確なレポート交換が難しいため、デジタルはなしとする。

規約について、誤りがあると、相当の責任を求められる。（過去の経験から）全役員は、一字一句目を通し、ミスがないか確かめてほしい。

第 32 回 JARL 渡島檜山支部 48 時間コンテスト規約~~(案)~~

1 日時：令和 6 年 9 月 6 日（金）18:00～9 月 8 日（日）18:00 まで

2 参加資格：日本国内で運用するアマチュア無線局

【管内局】 渡島檜山管内で運用する局

【管外局】 管内局以外の局

※コンテスト中の運用場所の変更を認めます。（管内と管外をまたがる変更は不可）

3 周波数：3.5～1200MHz 帯（3.8/10/18/24 MHz、レピータを除く）の 9 バンド

4 参加部門：電信電話部門のみ

部門		管内局	管外局
マルチバンド		INMULTI	OUTMULTI
シングルバンド	3.5MHz	IN3.5	OUT3.5
	7MHz	IN7	OUT7
	14MHz	IN14	OUT14
	21MHz	IN21	OUT21
	28MHz	IN28	OUT28
	50MHz	IN50	OUT50
	144MHz	IN144	OUT144
	430MHz	IN430	OUT430
	1200MHz	IN1200	OUT1200

※社団局のシングルオペによる参加は可能とする。

5 交信相手：（管内局）日本国内で運用するアマチュア局

（管外局）渡島檜山管内で運用する局

6 交信方法：

①呼び出し 電話：CQ 渡島檜山支部コンテスト

電信：CQ OH TEST

②コンテストナンバーの交換

- ・管内局：R S (T) + ハムログコード (下記参照)
- ・管外局：R S (T) + 都府県、地域(北海道)ナンバー

※したがって当コンテストでは、マルチとして 113 及び 114 は使われない。

7 得点及びマルチプレイヤー：

- ①得点：完全な交信 1 点。同じバンドでの同一局との交信は 1 回とする。
- ②マルチプレイヤー：交信相手局の運用場所を示す都府県・地域等。ただし、バンドが異なれば同一都府県・地域等であってもマルチプレイヤーとする。コンテスト中の運用場所の変更は認める。
- ③総得点の算出方法
 - ・マルチバンドの場合 〔各バンドにおける得点の和〕×〔各バンドで得たマルチプレイヤーの和〕
 - ・シングルバンドの場合 〔当該バンドにおける得点の和〕×〔当該バンドで得たマルチプレイヤーの和〕

8 交信上の注意事項：

- ① ゲストオペによる運用は禁止とする。
- ② コンテスト中の運用場所の変更はコンテストナンバーが変わるものを含めて認める。ただし、管内と管外をまたがる変更は不可。
- ③ その他については、「JARL コンテスト規約」に準ずる。

9 提出書類：

JARL 電子ログ形式、JARL 制定のログ、サマリーの電子メールでの提出、および郵送

10 締め切り： 9 月末日 郵送は消印有効。

11 失格事項：

- ①規約違反。
- ②2 部門にわたっての書類の提出。
- ③締め切り後の提出。
- ④提出書類の記載内容に 著しく不備があった場合。
- ⑤審査の結果、提出書類に虚偽の記載が認められた場合。

12 表彰：管内局管外局共に~~≠~~提出局数に応じて最大上位 5 局までを表彰する。参加局には「渡島檜山支部 48 時間コンテスト参加証」を贈る。また入賞者は翌年の渡島檜山支部大会で紹介する。

13 その他：同点による順位付けについては、最終交信時刻が早い局を上位とする。

14 発表：JARL NEWS(入賞局)、渡島檜山支部報、渡島檜山支部 HP(全参加局)

15 提出・問い合わせ先：

<郵送>

<メール>

○管内局（ハムログコード）

函館市 0104、北斗市 0136、七飯町 01024E、鹿部町 01025B、森町 01025D、
八雲町 01079A、長万部町 01071A、木古内町 01021B、知内町 01021C、
福島町 01067A、松前町 01067B、江差町 01059A、厚沢部町 01059B、
上ノ国町 01059C、乙部町 01053A、せたな町 01028B、今金町 01040A、
奥尻町 01016A

○管外局（都府県・地域等のナンバー）

北海道の地域

宗谷 101、留萌 102、上川 103、オホーツク 104、空知 105、石狩 106、根室
107、後志 108、十勝 109、釧路 110、日高 111、胆振 112

都府県

青森 02、岩手 03、秋田 04、山形 05、宮城 06、福島 07、新潟 08、長野 09、
東京 10、神奈川 11、千葉 12、埼玉 13、茨城 14、栃木 15、群馬 16、山梨 17、
静岡 18、岐阜 19、愛知 20、三重 21、京都 22、滋賀 23、奈良 24、大阪 25、
和歌山 26、兵庫 27、富山 28、福井 29、石川 30、岡山 31、島根 32、山口 33、
鳥取 34、広島 35、香川 36、徳島 37、愛媛 38、高知 39、福岡 40、佐賀 41、
長崎 42、熊本 43、大分 44、宮崎 45、鹿児島 46、沖縄 47、小笠原 48

第 31 回 JARL 渡島桧山支部 48 時間コンテスト

※今年度よりログの提出はWebまたは郵送での受付となりました。
→昨年メール不達のトラブルがあったため今年度よりメール受付を廃止しました。

日時：令和 5 年 9 月 1 日（金）18:00～9 月 3 日（日）18:00 まで

参加資格：日本国内で運用するアマチュア無線局

【管内局】渡島桧山管内で運用する局

【管外局】管内局以外の局

※コンテスト中の運用場所の変更を認めます。（管内と管外をまたがる変更は不可）

周波数：3.5～1200MHz 帯（3.8/10/18/24 MHz、レピータを除く）の 9 バンド

参加部門：電信電話部門のみ

部門		管内局	管外局
マルチバンド		INMULTI	OUTMULTI
シングルバンド	3.5 MHz	IN3.5	OUT3.5
	7 MHz	IN7	OUT7
	14 MHz	IN14	OUT14
	21 MHz	IN21	OUT21
	28 MHz	IN28	OUT28
	50 MHz	IN50	OUT50
	144 MHz	IN144	OUT144
	430 MHz	IN430	OUT430
	1200 MHz	IN1200	OUT1200

※社団局のシングルオペによる参加は可能とする。

交信相手：（管内局）日本国内で運用するアマチュア局 （管外局）渡島桧山管内で運用する局

交信方法：

①呼び出し 電話：CQ渡島桧山支部コンテスト または CQ渡島桧山コンテスト

電信：CQ O H T E S T

②コンテストナンバーの交換

・管内局：RS（T）＋ハムログコード（下記参照）

・管外局：RS（T）＋都府県、地域（北海道）ナンバー

したがって当コンテストでは、マルチとして 113 及び 114 は使われない。

得点及びマルチプライヤー：

①得点：完全な交信 1 点。同じバンドでの同一局との交信は 1 回とする。

②マルチプライヤー：交信相手局の運用場所を示す都府県・地域等。ただし、バンドが異なれば同一都府県・地域等であってもマルチプライヤーとする。コンテスト中の運用場所の変更は認める。

③総得点の算出方法

- ・マルチバンドの場合

〔各バンドにおける得点の和〕×〔各バンドで得たマルチプライヤーの和〕

- ・シングルバンドの場合

〔当該バンドにおける得点の和〕×〔当該バンドで得たマルチプライヤーの和〕

交信上の注意事項

① ゲストオペによる運用は禁止とする。

② コンテスト中の運用場所の変更はコンテストナンバーが変わるものを含めて認めます。

※ただし、管内と管外をまたがる変更は不可。

③ その他については、「JARLコンテスト規約」に準ずる。

提出書類：JARL電子ログ形式（txtファイル）によるWebからの提出。JARL制定のログ、サマリー又はこれと同形式・同サイズ（A4）で紙（プリンタでも手書きでも可）による郵送の形式。

※今回よりメールでは受け付けませんので支部HPよりWEB提出をお願いします。

締め切り：9月25日（月）郵送は消印有効。

失格事項：規約違反。2部門にわたっての書類の提出。締め切り後の提出。提出書類の記載内容に著しく不備があった場合。審査の結果、提出書類に虚偽の記載が認められた場合。

状況により該当者を支部HPに掲載する場合があります。

表彰：管内局管外局共にログ提出局数に応じて最大上位5局までを表彰する。また渡島檜山支部大会で紹介する。

その他：同点による順位付けについては、最終交信時刻が早い局を上位とする。登録クラブ對抗部門の参加者は必ずクラブ名を記入のこと。

発表：JARL NEWSでは入賞局を掲載、渡島檜山支部報、渡島檜山支部HPで全参加局を掲載する。
提出・問い合わせ先：

<郵送提出>

〒041-0853 北海道函館市中道2丁目43番18号

中道共同公宅1号館408号室 佐藤 佑介（JK8JZQ） まで

<Webからの提出> https://ohs.jarl.pro/?page_id=27

<問い合わせ> https://ohs.jarl.pro/?page_id=25



<ログ提出用>



<お問合せ用>

○管内局（ハムログコード）

函館市 0104、北斗市 0136、七飯町 01024E、鹿部町 01025B、森町 01025D、八雲町 01079A、長万部町 01071A、木古内町 01021B、知内町 01021C、福島町 01067A、松前町 01067B、江差町 01059A、厚沢部町 01059B、上ノ国町 01059C、乙部町 01053A、せたな町 01028B、今金町 01040A、奥尻町 01016A

○管外局（都府県・地域等のナンバー）

■北海道の地域

宗谷 101、留萌 102、上川 103、オホーツク 104、空知 105、石狩 106、根室 107、
後志 108、十勝 109、釧路 110、日高 111、胆振 112

■都府県

青森 02、岩手 03、秋田 04、山形 05、宮城 06、福島 07、新潟 08、
長野 09、東京 10、神奈川 11、千葉 12、埼玉 13、茨城 14、栃木 15、
群馬 16、山梨 17、静岡 18、岐阜 19、愛知 20、三重 21、京都 22、
滋賀 23、奈良 24、大阪 25、和歌山 26、兵庫 27、富山 28、福井 29、
石川 30、岡山 31、島根 32、山口 33、鳥取 34、広島 35、香川 36、
徳島 37、愛媛 38、高知 39、福岡 40、佐賀 41、長崎 42、熊本 43、
大分 44、宮崎 45、鹿児島 46、沖縄 47

■その他

小笠原 48

◆渡島檜山支部のコンテストの最新情報はこちらからご確認ください。



https://ohs.jarl.pro/?page_id=152

令和6年7月14日

<佐々木 朗>

JARL 渡島檜山支部結成 50 周年祝賀行事について

0 経過

JARL 渡島檜山支部では、10 周年ごとに記念式典、記念誌を発行してきた。私は 30 周年、40 周年と行事に携わり、40 周年記念時の記念誌の編集を担当した。昨年 2023 年がその年（JARL 北海道 8 支部体制と同じ）に当たり、当時の支部に何回か、計画の有無を打診したが、返事はなかった。50 周年の記念カレンダーは一部いただいた。
カレンダーは支部大会参加者以外もらっていないようだ。そうだとすると、支出額が大きい。配付先についてどうなっているのだろうか。

1 私としての構想

周年行事は、ものすごくエネルギーを使います。10 年に一度なので、毎年やるものと違って、時代も変わり、ノウハウもそのまま使えないことも多いです。

アマチュア無線界においても、10 年前のアクティビティーと今を考えると、「無理しなくていいんじゃない。」という声も聞こえるように思います。

私の中では、ずっと守ってきた渡島檜山支部の周年行事は、先輩への感謝の意もあり、一年遅れではありますが、ぜひ実施したいと考えております。

内容としては、この 10 年を振り返る記念誌作成と、祝賀会です。この祝賀会で、2034 年の支部結成 60 周年、2026 年の JARL 結成 100 周年の気運を盛り上げていきたいと考えます。

時期は、11 月前半あたり、函館市か、函館市近郊を考えております。

基本的には、OK。手伝いがいないと、業務があまりにも多いことになる。支部報を縮小して、こちらに各局短信を入れる。

祝賀会は、いくら高くても 5 K。できるだけ安価を目指す。

現在は、ホテルなどの確保が難しい状況もある。

令和 6 年 7 月 14 日
＜佐々木 朗＞

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部の非常時における体制について

0 経過

20 数年ほど前、日本アマチュア無線連盟で非常通信ボランティアが組織されているが、実際の活動はそれぞれの支部に委ねられている。その頃より JARL 渡島檜山支部では、支部で非常通信ボランティアを組織し、非常通信伝達訓練を行っていた。

令和 2 年、JARL 渡島檜山支部は、それまでしばらく連携が取れていなかった函館市役所ともう一度、災害時の連携を確認した。

令和 4 年度から、「非常通信ボランティアは存在しない。」という見解(と思われる)に代わり、各自の意思で、非常通信伝達訓練へ参加する体制に変わった。

本年度より、もう一度、全会員に対して、非常通信ボランティアを募り、アマチュア無線の社会的貢献の一つとして、できる範囲で、できることをしてもらうことに、再度舵を切ることにした。

1 JARL 渡島檜山支部非常通信ボランティアの意義

(1)函館市の地域防災計画にあるように、非常の事態が発生し、防災当局から連絡が、JARL 渡島檜山支部にあった場合、さらに、非常通信ボランティアは、自身や家族の災害状況や自身の仕事などを考慮し、活動ができると判断した場合、災害情報、避難情報などの通信手段の一助として、ボランティアで活動する。

(2)日ごろの訓練を通して、「災害時には、アマチュア無線は役に立つ存在である。」という意識を持ち、災害発生時、また、注意報、警報の発令時には、無線機のスイッチを入れるなどの心構えを育てる。

(1)非常通信ボランティアとして、日ごろの備え(ハンディトランシーバーの電池の充電、ポータブル電源の充電、発電機のかかり具合、無線機の調子、アンテナ及びケーブルなどの点検)を意識化する。

あくまでも、災害時に「できる範囲で、できることを」を基本とし、備える意識を持つようにする。**基地局・移動局とも商用電源を使わない訓練も必要。桔梗消防署からは、連携の申し出もあった。**

2 支部の業務

(1)非情通信ボランティアを確保し、非常の事態に対応できるようにしておく。

(2)非情通信に関わるような、情報を提供し、各自の意識を保つことができるようにする。

(3)非常通信伝達訓練、および日常のメリット交換などを行っていく。

(4)函館市防災担当とのパイプを太くしていく。今後アマチュア無線の社会貢献として

の利用をPRし、免許の取得なども呼びかけていく。

3 非情通信伝達訓練

年に1度ないし、2度、函館市と連携を取りながら、災害情報を送る訓練を行う。状況としては、災害が発生し、多くの人が避難所に避難したが、通信手段が遮断されているという想定とする。アマチュア無線を避難所と対策本部間の通信を担い、避難所の人数や状況、不足物資、また災害状況などの内容で訓練を行う。

尚、広域レピータ、シンプレックスなど、工夫しながら行う。

基本的には、函館近郊(函館市、北斗市、七飯町)が中心となるが、折をみながら、そのほかの地域の自治体や消防、警察署などを回り、アマチュア無線の災害時の有効性などを訴えていく。

4 非情通信ボランティア

7L2RLB	JA6WHM	JA8LE	JA8DHR	JA8EJZ
JA8FSB	JA8FHM	JA8IRQ	JA8JYA	JA8MAC
JA8VKV	JA8WNR	JA8WVV	JA8XAS	JE8HLA
JE8NTJ	JE8OGI	JG8KKC	JG8QYH	JH8CBH
JH8NHC	JH8NNW	JI8IER	JI8PLY	JJ8KTT
JJ8MVL	JJ8UDA	JK8IFW	JK8TYW	JK8XBR
JL8JUK	JM8OTS	JM8QFX	JM8RWB	JR8CSA

7/12 日で 35 名

※災害発生時には、非常通信ボランティアに登録されていない局でも、災害通信の確保に協力できる方については、お願いする。

5 今抱えている課題

- ・基地局の場所について。令和 6 年度の非常通信伝達訓練で、函館市の東部などの伝搬状況が良くなかった。レピータを使うとそれは、解消される。市役所にアンテナを立ててシンプレックスの訓練も必要かどうか。
- ・非常通信ベストの斡旋に関わる方向性 **強制はしない**
- ・函館近郊以外の非常通信伝達訓練のあり方 **長い目で見ていく**
- ・総合防災訓練でのアマチュア無線の居場所の確保
- ・ベストの斡旋について(以前の価格 3113 円)

非常通信を行うには免許が必要である。

市役所・消防・警察・自衛隊に加えて、病院などの連携も大切。D-MAT で災害時アマチュア無線が使われたことがある。

様々な角度から、アマチュア無線のあり方を PR



令和6年7月 日

函館市長様

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部

支部長 佐々木 朗

災害発生時の日本アマチュア無線連盟の動きについて(確認)

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部(以下支部)は、函館市地域防災計画第1章第1項の8、第3章第2節第2項の3、及び第3章第2節第4項に基づき、函館市及び防災関係機関(以下防災当局)から非常通信の要請があった場合(一般電話(災害時有線電話及び携帯電話並びに専用通信回線による通信が困難な場合)、当支部非常通信ボランティア及び支部会員(以下協力局)に呼びかけ、災害から市民の生命、身体および財産を守るため、次の業務を行う。

災害時における情報の収集、伝達。

具体的には、協力員は、函館市内及び近郊の避難所と当局との連絡を担う。

函館市及び防災対策期間の対応

- 1 アマチュア無線による非常通信が必要とされる事態が発生した場合、防災当局は、支部に非常通信の協力を求めることができる。支部への連絡は次の優先順位を以て連絡を行う。

支部長 佐々木 朗 090-8277-9744 87-1659

幹 事

幹 事

函館市役所アマチュア無線クラブ

- 2 依頼時には、協力員の配置場所、業務内容、業務期間を可能な範囲で知らせる。

支部の対応

- 1 支部は、防災当局から非常通信の要請があった場合、直ちに指揮本部を設置し、参加可能な協力員を募る。
- 2 支部は、直ちに防災当局の本部に、複数の通信員を配置する。
(1及び2は並行して行う。)

協力員の対応

- 1 協力員は、災害発生時に備え、商用電源がない中で通信ができるよう、車載器の整備、携帯機の整備、空中線、電池やバッテリー、発動発電機の日常点検を行う。
- 2 協力員は、災害が発生した場合、可能な範囲で、145.00MHz の呼出周波数及び 439.66MHz のレピータ周波数を聴取することとする。
- 3 協力員は、指揮本部より非常通信の要請があった場合、自身や自身の家族、また、関係の仕事などに支障がない範囲で、非常通信に協力することとする。

令和 6 年 7 月 14 日

＜佐々木 朗＞

J A R L 渡島檜山支部フォックスハンティング大会について（案）

今年度は行事が輻輳しているので、来年の春実施。行事として復活させる。

0 経過

フォックスハンティングはコロナもあり、しばらくできない状態が続いていた。前支部体制では、参加者数が少ないという理由で、事業から外れた。しかし、復活と懇親会の開催を要望する声もあることから、仕切り直しで、今回は秋（これまでは春）の実施で計画を立てた。

1 目的

- (1)競技を通して、電波の不思議さおもしろさを体験すると共に技術の向上を図る。
- (2)懇親会を通して、支部会員の交流を図る。
- (3)アマチュア無線に対して、その面白さを伝える機会の一つとする。

2 実行委員

実行委員長 佐々木 朗

事務局長 ()

事務局員 () ()

2024年10月

＜ ＞

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
✕	21	22	23	24	25	26
✕	28	29	30	31	1	2

3 期 日 令和 6 年 10 月 6 日（日）

雨天時は 10 月 13 日(日)

4 場 所 四季の森公園

5 参加費用 1,000 円（傷害保険、ジュース、焼肉、諸経費として）

6 参加資格 JARL 渡島檜山支部会員、およびアマチュア無線に興味のある方。

7 申し込み メール、電話などで、事前に申し込みを取る。

申し込み締め切りは、9 月 29 日（日）

8 日程

9：00 役員集合（四季の杜公園駐車場）

9：50 参加者集合

9：50～10：00 受付

10 : 00 開会式
10 : 15 競技開始
11 : 15 競技終了
11 : 30～12 : 30 懇親会
12 : 30 後始末、解散

9 競技のルール

- (1) 選手は、1 時間内に見晴公園内にある F O X 2 頭を探し、カードを取得します。
- (2) 競技時間は、スタートより 1 時間とし、キツネ捕獲後または、競技時間終了後、スタート地点へ戻ってくるものとします。
- (3) 合言葉により、それぞれの F O X からカードを受け取ります。
合言葉は「函館山にキツネはいますか」
F O X 「はい、キツネ(タヌキ)です」
※合言葉が合わない場合は、キツネ（タヌキ）はカードを渡しません。
- (4) 選手は 2 枚のカードを集めてゴールします。
- (5) キツネとタヌキは、見晴公園内を移動します。
- (6) 順位
 - ① 2 枚のカードの番号の和が少ない方を上位とします。
 - ② 同点の場合は若番を持っている方を上位とします。
 - ③ 更に同点の場合はキツネの方の若番を上位とします。
 - ④ 時間内に発見出来ない場合は最終番号を加算します。
- (7) 1 位から 5 位まで入賞とし、賞状を渡します。
- (8) その他、細かい点については、主催者が判断します。

注 意 事 項

- (1) アンテナは、他の利用者に迷惑をかけない範囲で自由とします。
- (2) 選手は他の選手に F O X の情報を教えてはいけません。
- (3) 選手はフェアに行動し、主催者の指示に従いましょう。
- (4) 選手は、公園の自然を大切にすると共に、事故のないよう気をつけましょう。
- (5) 参加者にはスポーツ障害保険をかけます。

10 用具、準備

- (1) 運営関係～看板、受付用紙、レジュメ、折りたたみテーブル、筆記用具、支部旗、カメラ、マジック、記録発表用紙、賞状（名前とコール以外記入済）、申し込みフォーム作成
- (2) フォックス関係 順位カード 送信機 2 台

1 1 推進日程

8月24日(日) 第2回役員会で、担当者決定 第一回実行委員会打ち合わせ
9月15日(日) 申し込み開始 支部大会時
9月 報道機関(道新)取材依頼
9月 アムール、ドリームハムレディオにポスター掲示、ちらし準備
9月29日(日) 申し込み締め切り
10月3日(木) 傷害保険手続き完了
10月3日(木) マニュアル、賞状など、準備完了
10月5日(土) 実行委員会(最終チェック)
10月6日(日) 当日
6月21日(月) 決算終了、残金は支部会計へ
6月21日(月) JARL NEWS 原稿、CQ誌ローカルトピック写真送付

1 2 事前準備

- (1) 全体把握・フォックス依頼 ()
- (2) 報道関係 ()
- (3) 函館公園の利用確認 ()
- (4) チラシ、ポスター、番号札など、フォックス関係準備物 ()
- (5) 当日のレジメ関係 ()
- (6) 送信機関係 ()
- (7) 賞状、賞品、結果発表用紙 ()
- (8) 傷害保険加入 ()
- (9) 申し込み WEB
- (10) OHB、ホームページ掲載 ()
- (11) 会計 ()

1 3 当日の役割

- (1) 全体把握 ()
- (2) 本部設置 ()
- (3) 受付 ()
- (4) 開閉会式進行 ()
- (5) 懇親会進行 ()
- (6) ルール説明 ()
- (7) ジュース購入 ()
- (8) 会計 ()
- (9) 懇親会 () () ()

(10) 写真 ()

(11) フォックス担当 キツネ () タヌキ ()

1 4 開閉会式

開会式

- (1) 支部長挨拶 ()
- (2) ルール説明 ()
- (3) 緒連絡 ()

閉会式

- (1) 結果発表 ()
- (2) 表彰 ()
- (3) 講評 ()
- (4) 記念写真 ()

1 5 その他

挙否決定は、中止の場合は、午前8時までに、支部ホームページ、145MHzFM 帯及び OHB で流す。決定は、支部長と事務局長で行う。

令和 6 年 7 月 13 日
＜JARL 渡島檜山支部 佐々木 朗＞

145MHz におけるロールコールの実施について

0 経過

ローカル局 O さんからの提案を受け、実施された事業であり、平成 31 年 2 月 2 日が初回となる。毎月第 1 土曜日の午後 8 時、145MHzFM で行ってきた。7 月で定例ロールコールは 66 回目となる計算である。そのほかに大晦日年越しスペシャルロールコールなどもあった。

1 目的

- (1)ロールコールを通して、JARL 渡島檜山支部会員の交流を図るとともに、アマチュア無線のアクティビィーを高める一助とする。
- (2)自分の無線機の調整をする機会とする。
- (3)通信技術の向上を図る。

2 主催 JARL 渡島檜山支部

3 日時 毎週第一土曜日午後 8 時より

諸行事があっても、原則この時間を動かさない。

4 参加対象 アマチュア局（支部管内管外、JARL 会員の有無は問わない）

5 会員への周知

- (1)JN による
- (2)OHB による
- (3)無線による
前日、当日に、アナウンスをする。
- (4)ハムショップの掲示
- (5)支部 HP

6 キー局

役員が中心になろうかと思うが、広く、参加者で回して、経験していただきたい。おおよその市内が聞こえればハンディ局でのキー局もありとしたい。

7 内容

- (1)チェックイン
- (2)支部長挨拶、連絡
- (3)皆さんからの連絡
- (4)時間があれば、一人ずつ近況報告
- (5)ファイナルコール

8 流れ

(1) 呼出

- ・「CQ CQ CQ こちらはJ〇8〇〇〇。これより、145.〇〇にて、JARL 渡島
桧山支部 2 mFM ロールコールを開催致します。このロールコールは、JARL
会員、非会員、管内、管外 関係なくご参加頂けます。チェックインでの QSO
では、コールサイン、RS レポートをいただきます。是非、お気軽にご参加
下さい。こちらは、キー局、J〇8〇〇〇 北斗市 〇〇です。宜しく、お願
い致します。 次回、145.〇〇にて、再度コール致します。」

(2)参加者受付

- ・「CQ CQ CQ こちらはJ〇8〇〇〇。これより、JARL 渡島桧山支部 2 mFM
ロールコールを開催致します。参加局を受け付けます。どうぞ。」
- ・「相手局、こちらは、J〇8〇〇〇 59 です。よろしくお願いします。どうぞ。」
レポートをもらう。「ほかいらっしゃいますか、こちらは、J〇8〇〇〇どう
ぞ。」以下繰り返す。途切れたところで、
- ・各局、こちらは、J〇8〇〇〇 函館市の〇〇です。本日のキー局を務めさせ
ていただきます。今日は〇局の参加となります。

(3)挨拶、連絡事項

- ・「では、JARL 渡島桧山支部 支部長から、ご挨拶を頂きます。JH8CBH 佐々
木さん、お願いします。」
- ・「引き続いて、役員の方から連絡、ありますでしょうか。」
- ・「みなさんから、の連絡事項など、ありますでしょうか。」

(4)途中からの参加局確認

- ・「現在、JARL 渡島桧山支部ロールコールを開催しております。本日のキー
局、こちらは、J〇8〇〇〇です。遅れてきたかなどいらっしゃいましたらコー
ルください。」

(5)時間があるようでしたら、(キー局の判断)

- ・「時間が早いので、参加局お一人お一人に近況をお話してもらおうと思いま
す。最初に J〇8〇〇〇さん、お願いします。「J〇8〇〇〇さんありがとうございました。続いて・・・」

(6)終了

- ・「現在、JARL 渡島檜山支部ロールコールを開催しております。本日のキー局、こちらは、J〇8〇〇です。最後になりますが、遅れてきたかなどいらっしやいましたらコールください。」
- ・「以上を持ちまして、第〇回、JARL 渡島檜山支部 2 mFM ロールコールを終了します。本日のチェックイン局数は、※※局さんでした。次回は、〇月〇日（土）、午後8時からになりますので、来月も、各局様、宜しくお願い致します。」
- ・「J〇8△△△ こちらは、J〇8〇〇〇 さようなら。」以下繰り返し。
- ・「参加局ありがとうございました。こちらは、J〇8〇〇〇 さようなら」

9 ロールコールの記録

ロールコールキー局担当者は、次のことを記録し、常任幹事に引き継ぐ

(1)期日

(2)キー局名

(3)参加者 コールサイン及び氏名 総参加者数

(4)連絡事項

(5)その他特記事項

常任幹事は資料を整理し、必要に応じて支部役員会に報告する。

1 0 司会局（キー局）の輪番について

常任幹事を中心に、前月のロールコール時には、翌月のキー局をお知らせできる体制を取りたい。

キー局は役員がまず、経験し、それから、広く公募していく。8月村田さん、9月船橋さん、10月中澤さん、11月松平さん、12月佐々木さん、1月田中さん。アンテナ、距離の関係で難しい時は、取れる方がフォローする体制を組む。

1 1 その他

(1)支部役員については、特段の参加努力をする。

(2)改善やアイデアについては、常任幹事に申し出、役員会（ML上の会議も含め）で随時協議し、取り入れていく。

(3)本事業に関するトラブルについては、キー局に責任がいかないように支部として配慮していく。

ZOOM という意見も出たが、知識が必要、また手軽さから、無線で続ける。

令和6年7月14日

JM8OTS 松平真一

令和6年度JARL渡島桧山支部 非常通信について

記

- 非常通信ボランティアについては、JARL会員でなくとも良いようにしてください。
- 災害時に非常通信を行う周波数はあらかじめ、ある程度決めても良いのではないかな。
- 非常通信ボランティアには、非常通信ベストの購入を義務化させてはいかがかな。
- 函館市との災害連携を再確認してください。
- 日本赤十字社の無線奉仕団との連携を密にしてください。(日赤奉仕団から依頼)
- 非常通信訓練の実施回数をもっと増やしても良いのではないかな。
- 非常通信訓練は、各自治体災害訓練と抱き合わせで行っても良いのではないかな。

以上

●連絡事項●

- 1, 8月31日 北斗市において防災訓練が行われます。
- 2, 9月8日 渡島総合振興局地域政策課主催防災イベント(イオン上磯店)

・非常通信ボランティアは、JARL 渡島桧山支部の組織であるので、会員を登録するものとする。ぜひこれを機会に JARL への入会も考えていただければ幸いである。

・非常通信周波数については、JARL の定める非常通信周波数も念頭に入れながら、普段使っている使いやすい周波数を使っていくのがスムーズであると考えてる。

・ベストについては、お金のかかることでもあり、義務化はできない。その一方、ベストを付けることで士気が高まることは、自明であり、今後も斡旋していきたい。

・函館市防災計画

https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2023112100046/file_contents/2023112100046_hk_docs_2023112100046_files_tiikibousaieikakukaiteian.pdf

68 ページ (PDF では 88 ページ) にアマチュア無線の連携の記述あり

・必要な団体とは連携を密にしていきたい。

・伝達訓練については、回数を増やすことも考える。また、日常のメリット交換なども考えられる。

・各自治体の訓練と連携することはとても大切なことだと考える。関係機関とのパイプを作っていきたい。